

非核の政府を求める石川の会 会報

非核・いしかわ

一一・一一県民集会に二〇〇〇人

志賀原発は即時廃炉に！

うねりを広げる大きな一歩へ

一一・一一反原発百万人行動の日、金沢市は曇り空。会場の金沢・中央公園は子ども連れの家族、楽器や創意豊かな宣伝グッズを持った若者たちはじめ、老若男女が続々と集まり、千人の「原発ゼロ」の声とテーマカラーの黄色で埋め尽くされました。

九時四五分、出前うたごえの皆さんが歌で会場を温める。一〇時、呼びかけ人の石川県保険医協会会長西田直巳さんの開会宣言。「ミツバチの羽音と地球の回転」制作プロジェクト・小原美由紀さんの司会で集会はスタート。二二人の呼びかけ人から当日参加された一二人が紹介され、時間の都合から岡井直道さん（かなざわ演劇人協会）、河崎俊栄さん（日蓮宗僧侶）、志田弘子さん（加賀友禅作家）、吉田均さん（小児科医）の四氏が各々の立場から挨拶をされました。その挨拶は圧巻でした。

そのお一人、志賀原発から一〇余kmの能登から駆けつけた志田弘子さんは、「能登は長年ひたすら耐

事務局
〒920-0848
金沢市京町 28-8
石川民医連労働組合気付
Tel 076-251-0014
郵便振替
00760-0-15689

非核 5 項目

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

えることを強いられて来ました。地元を黙らせるために、どれほどのお金か、どこへ消えたのか。地域を二分するあまりにも大きなものの前に、目も、耳も、口もふさぎ、たび重なる事故の多さに不安を抱きながらも、心許して話も出来ず、過疎が解消されるどころか：子どもたちには、もう帰ってこんでもいい：と深い諦めとともに、あたかも原発はないかのようにしていなければ、暮らしていけないことでした。

—国は国民を守らないのだ—
—私たちは捨てられたのだ—

福島からの血を吐くような叫びは、今もそのまま能登の叫びです。原発は、すべてのものを静かに滅びに導きます。原発はいのちとともにあつてはいけません。決して諦めてはいけません……と思っ

ています。」と話され、また吉田均さんは「原発なくす力を大きくしよう。原発推進勢力にレッドカードで示そう」と呼びかけ、会場から「オーツ」と唱和が返ってきました。
福島から駆け付けた、復興センターの鈴木達也さんは「原発事故は当たり前の日常を奪うもの：『原発ゼロ』へ共に闘おう」と涙と怒りの訴え。富山県、福井県から連帯のスピーチ。一月に群馬県から移住



どのような時代にあつても人々は『よりよき明日』への意志を持っている。それは新しい時代を開く力でもある。弱い人間群が大きな力を発揮できるようにすることこそまぢや国のつとめである——バブルがはじけ、低落する十五年前、業界紙コラムへ寄稿した▼昨年セビーリヤ大聖堂正門で出合ったスペイン教育労働者たちの「勤務が長時間で家族との時間が持てない！」との訴えが眼を惹いた。いま、私たち日本の働く者は「家族との時間」ばかりか「自分との時間」までも奪われ、まさに『人間・労働の尊厳』とは相いれない社会へと向かう分岐点にある▼縮小する世界経済にあえぎ、膨張する「過剰資本」は、現代世界をマネーゲームへ駆り立て、国のかたちは産業国家から通商国家へと変形させられ、「決められない政治」が、あらゆる分野で国民生活を踏みしだく「暴走する政治」へと突き進もうとしている▼いま私たちに求められるのは、新しい時代を開く力——『よりよき明日』を願うみんなの意志に依拠し、いまこそ『人間・労働の尊厳』へと立ち返り、わが街・わが国をつくりかえることだと思ふ（二）



原発推進勢力にレッドカードを！と訴えた
小児科医の吉田均さん



決して諦めてはいけないと切々と訴えられ
た加賀友禅作家の志田弘子さん

されたMさんは幼児を抱き苦悩と決断を語り「愛の反対語は無関心」とマザーテレサさんの言葉を引用、子どもたちの未来への手つなぎの呼びかけに胸を突かれました。

リレートークは「核兵器と原発は悪魔の双子、人間社会と相いれない」と広島島の被爆者の声。地元志賀町民の訴え。「放射能から子どもたちを守ろう」と新婦人の会ママ友グループ。病院勤務のピースチヤリンコの青年たち。全国と連帯し毎週金曜行動の「どいね原発」からも一九回の活動を報告。フラダンス、ギター、太鼓のグループが共同でリズムとダンスで訴え。産地と食の安全を守る農家の皆さんや原発問題住民運動センターの富来川南岸断層のボーリング調査の報告。集会アピールをイラストレーターかるべめぐみさんが提案。市民マラソンを走り終え駆けつけた呼びかけ人の医師・佐藤清さんはカエルの縫いぐるみに「原発から再生エネルギーにカエルのゼッケンを付けて登場し、「カエルの目で見て、人間の目で見て」も千人の参加、これを力に、直ちに志賀原発廃炉、原発ゼロへ共同の輪を広げよう」と閉会挨拶をされ、会場を沸かせました。

集会後、香林坊から武蔵ヶ辻まで黄色の風船を持ち、太鼓や笛の音に合わせ「原発なくそう」と市民にアピールしながらパレード。パレードの終了を待っていたかのように雨がポツリポツリと落ちてきました。

九月一日に「原発なくす石川県連絡会」を結成して二ヶ月での集会成功を力に、原発推進勢力の巻き返しを許さず「原発即時ゼロ」へ、来年の三・一一福島原発事故から二周年へ向けて、共同の輪を広げて行くための第一歩としていきたいと思えます。運動への確信をいただきました。

(常任世話人・尾西洋子)

石川県保険医協会・原発問題講演会

福島原発の現状と未来

講師 小出裕章氏 (京都大学原子炉実験所)

金沢は小雨。十一月一日、中央公園の脱原発県民集会を受け、午後一時半からホテル金沢を会場にして、小出裕章先生の講演会が開かれた。聴衆は四五〇人、三〇〇人収容の会場は、急遽拡大され、それでも会場は人で埋め尽くされている。これが小出先生の力なのだと素直に感心した。いや今不安を抱えて生きる国民がそれほど多いということなのか。

会の冒頭、西田直巳会長が挨拶に立った。保険医協会が脱原発へ向かった動機、これまでの取り組み、そして志賀原発廃炉への強い思い。

地震多発地帯と原発立地

小出講演は、方丈記の序章から始まった。次いで、世界の地震多発地帯と原発の地図。その中で日本列島だけが地震ベルトと原発の点で埋め尽くされている。ヨーロッパにも、アメリカ東海岸にもM7以上の地震はほとんど認められない。会場がシーンと静まりかえる。地震エネルギーのグラフでは、M7を超える地震の桁外れの力が示される。東日本大震災のM9は、広島原爆三万発分に匹敵する。このさまざまなエネルギーが脆弱な日本の大地を襲ったのである。

先生の話は、実に明瞭である。広島に落とされた原爆のウラン燃焼量を一とすると、一〇〇万kWの原発一基が一年間に燃焼するそれは、実に一二〇〇倍



子どもたちを被曝から守ろうと訴えられた講師
の小出裕章先生 (11月11日、ホテル金沢)

に達する。当然同量の核廃棄物(ゴミ)が生まれ、各地の原発に付属する冷却プールに保管される。福島第一原発四号機、取り壊された建屋から冷却プールの一部が見える。宙ぶりになったプールの底が崩壊したとき・汚染は五〇〇倍となる。想像を絶する。コントロール不能となった原発四基からは今も現在進行形に放射線が放出され続けている。国際原子力機関(IAEA)に日本政府が提出したデータでは、一〇三号機でトータル八・九×一〇一三ベクレルのセシウム一三七、広島原爆一六八発分に相当する分が、大気にはばまかれた。多分それは想像しうる最小限のものだ。なぜなら、当事者である政府が真実を語るはずがない。そう先生は指摘された。

広範な地域が放射能汚染に晒された

海水中にどれだけ出たのか、それは不明のまま。日本地図の上に、大気に拡散した放射能汚染が色別に表示されている。基本的に日本上空には、偏西風が流れている。西から東へ。しかし、風向きは常に動く。その結果、事故後わずかの間に、福島から、栃木、群馬、茨城、千葉、東京都に至る広範な地域が放射線監視区域の目安四万ベクレルを超える放射能汚染に晒された。二〇kmの避難区域はバスで強制移送されたが、三〇km圏内は自主避難となった。混乱する情報、寸断される道路網、逃げるべき場所さえ確保されず、地域住民は無用の被曝の中に取り残された。

放射能汚染によって失われた土地は、一〇〇〇km²。すなわち、人が住めない地域である。被曝、崩壊する一次産業、そして家族の生活。すべてが寸断されていく。一体誰の責任か？ 淡々と、しかし力強く言葉が繋がる。

原発はトイレのないマンション

原発はトイレのないマンションである。生み出された放射性廃棄物は、その捨て場所がない。宇宙へ、深海へ、南極へ。すべてが検討され、否定された。最後に大深度地下が残ったが、日本学術会議はついに重い腰を上げ、「地下埋没は非現実的」と声明を出した。一万年後、一〇万年後の地下の安全など、日本では保障しようがない。至極真つ当な意見だ。そう、捨て場所がない。それでもなお、原発が日本にとって本当に必要なのか？

講演会を通して、先生が繰り返されたのは、「子

どもを被曝から守れ」というフレーズだった。個体は加齢と共に放射線感受性が減少する。一八禁ではなく、六〇禁というラベルを食品に貼ってはどうか？ 「六〇才以上しか食べてはいけない」と提案すると、会場から笑いがもれた。実に明快なメッセージだ。

目を反らしてはいけない真実がある

原発がなくても電気不足にはならない。真夏の午後、ほんの数時間の最大電力量を担保するために原発が必要か？ 電力会社とそれを支える銀行の実態、購いきれない罪を犯した東電をそれでも救おうとする政府の欺瞞。聴衆のすべてが聞き入り、その話に頷く。すべての日本人に、自らの立っていた場所により、それ相応の責任がある。その自覚から出発する。何百年かかる放射能汚染との戦い、さらに何万年、何十万年と続く放射性廃棄物処理との苦闘。その時の長さは、人類の歴史と較べても気が遠くなる長さだ。そう語り終えた時、万雷の拍手が会場を包んだ。決して、明るい話ではない。夢を語る話でもない。しかし、ここには目を反らしてはいけない真実がある。その真実を確かめることができたこと。それが聴衆を奮い立たせたのだ。

講演後も多くの人達が先生の周りに輪を作り、握手を求め、質問をぶつけた。今を生きる不安を語り、共に歩く。司会を務めることができたことを何より幸せに思う。

(石川県保険医協会副会長・大平政樹)

平和市長会議加盟自治体を訪ねて(第四回)

京都・金沢市を訪問

毎年「原爆と人間展」を開催

一九八五年一二月の金沢市議会で議決された平和都市宣言では、「核兵器の全面禁止・廃絶は、人類すべての願いであり、われわれはその実現に向けて不断の努力」や「世界の各都市と姉妹友好都市提携を行い、市民交流と友好親善の増進」を謳っています。これは平和市長会議の目的(核兵器廃絶の市民意識を国際的な規模で喚起する)と完全に一致しており、二〇〇九年一二月に金沢市は平和市長会議に加盟しました。

駅西地区にある姉妹都市公園にはバッファロー市(米国)やゲント市(ベルギー)など七つの姉妹都市市長のメッセージとともに、金沢市「平和都市宣言記念碑」が建立されています。山出保金沢市長(当時)のメッセージは、「平和なくして文化はなく、平和は文化によってつくられる」です。

金沢市では二〇〇二年から毎年夏に原爆被害の実状と平和の大切さを伝えるため「原爆と人間展」を市立泉野図書館で開催しています。このパネルは日本原水爆被害者団体協議会が制作したもので金沢市が所有しています。

二〇一〇年には金沢駅もてなしドームで、原爆写真や被爆した生活用品、遺品等を展示した「広島原爆展」を広島市・広島平和文化センターとの共催で開催しました。二〇一一年からは広島平和公園にある「原爆の子の像」のモデル・佐々木禎子を集集し

た「原爆と人間展―サダコと折り鶴」を泉野図書館で開催し、二〇一二年には会場を玉川こども図書館に変えて同展示会を開催しました。今年の会場で寄せられた感想を紹介します。

* * *

・修学旅行で広島に行ったこともあり、原爆の恐ろしさを風化させてはいけな思っていました。展示により、一人の人生が絶たれた様子や経過が分かり、悲しみや、改めてノーモア・ヒロシマという思いが湧いてきます。東日本大震災で被爆された方々のことも、もつともつと真剣に取り組んでいくべきだと思いました。

・こども図書館でこのような展示がされていることに最初は意外だなあ(よい意味で)と思いつつ見えていきましたが、若い父親がパネルを熱心に見ながら子どもに説明している姿に、この場所で企画が行われていることの意義とすばらしさを実感しました。

* * *

取材に応じていただいた金沢市総務課の紙谷勉課長補佐、藤本敏文総務グループ長からは、原爆被害の実相を次世代に伝えていくことの大切さと、平和事業の予算なしでも毎年創意をこらして展示会の企画・設営に尽力されている様子がかがえました。

二〇一〇年までにすべての核兵器廃絶」を目標に掲げている平和市長会議は、世界の都市に加盟し、非核平和の運動を呼びかけており、十一月一日現在、一一五カ国五四三都市が加盟しています。日本でも一二四一自治体(七二・二%)に広がっています。県内では五自治体(三〇%)に留まっています。

当会がこれまで訪問した野々市市、内灘町、七尾市、金沢市ではそれぞれ特色ある非核平和事業を推進されており、他の自治体でも平和市長会議への加盟と非核平和の取り組みを期待したいものです。

二〇一二年日本平和大会「東京代表派遣募金のお礼と」報告

十一月二三日から二五日まで東京を中心に開かれます。今年日本平和大会は、沖縄と全国のオスプレイ配備・訓練反対の運動、領土問題で緊張高まる中、アジアと日本の平和実現の展望、原発・消費税などのちと暮らしを守る運動の交流と実現のために、安保条約破棄することの重要性を学ぶ大会です。

非核石川の会は神田順一事務局長を会員の皆さんからの募金で代表派遣します。

十一月二〇日現在、募金は一九人様より五六五〇〇円寄せられました。心よりお礼を申し上げご報告いたします。ありがとうございました。

非核の政府を求める石川の会 常任世話人会

神田順一事務局長談

「初の日本平和大会参加です。全国の非核平和を求め運動に学び、元気に交流してきます」

核戦争を防止する石川医師の会

「はだしのゲン」寄贈運動

野々市市、内灘町、七尾市に広がる

核戦争を防止する石川医師の会（以下、反核医師の会）では生命と健康を守る医師の責任として、核兵器のない世界を実現し、未来の子どもたちに平和で豊かな地球を引き継ぐために、非核平和の運動を進めています。被爆者が高齢化し、語り部が少なくなっている現在、私たちは核戦争による被害、被爆の実相を子どもたちに伝える参考図書として、漫画『はだしのゲン』（中沢啓治作／全一〇巻）を県下の小中学校図書室への寄贈運動を進めています。

昨年一二月の金沢市内の小中学校に続いて、今年度は野々市市、内灘町、七尾市の各教育委員会に『はだしのゲン』の所蔵状況と寄贈希望につき調査していただきました。ほとんどの小中学校で『はだしのゲン』（日本語版）を所蔵しているが、よく読まれて破損、欠巻があるため所蔵の有無にかかわらず多数の寄贈希望がありました。別表にあるように反核医師の会にこれまで寄せられた募金（三三九、四九五円）にもとづき、それぞれ希望された学校に計四一セットを寄贈することができました。

野々市市ではすべての小中学校（六校）が所蔵しており、貸出冊数が月二〇回〜三〇回という学校が三校もありました。九月二日、同市教育委員会への寄贈の際、他に希望があった「英語版」は学校図書室の予算計上を要請しました。一〇月五日、内灘町では英語版、ロシア語版を翻訳・出版したプロジェクト・ゲン代表らも同席して寄贈式が行われ、西尾雄次教育長に中学校と町立図書館への「英語版」二セット購入を依頼し、快諾を得ました。一〇月九日に開かれた七尾市の寄贈式では、三浦光雄教育長と読書感想文のコンクールも話題になりました。

今後、「原爆被害の実相と核兵器の非人道性を伝え、核兵器廃絶と平和の思いを国内外の次世代に継承していくため『はだしのゲン』の普及・読書運動を進める事業を行い、核兵器のない世界をめざす運動を発展させる」（NPO法人「はだしのゲン」をひろめる会設立趣意書）ために反核医師の会、プロジェクト・ゲン、石川県生活協同組合連合会が中心となってNPO法人を設立し、市民参加による運動を継続していきます。

「はだしのゲン」をひろめる会設立へ

特定非営利活動法人「はだしのゲン」をひろめる会設立総会

特定非営利活動法人

「はだしのゲン」をひろめる会設立総会

日時 一二月九日（日）一〇時〜一二時
 会場 近江町交流プラザ四階研修室
 記念企画 ドキュメンタリー映画「はだしのゲンが見たヒロシマ」DVD上映（石田優子監督）
 主催 「はだしのゲン」をひろめる会準備会
 事務局 核戦争を防止する石川医師の会

核戦争を防止する石川医師の会の『はだしのゲン』寄贈の進捗状況

年月日	自治体名	小学校	中学校	計
2011年12月	金沢市	11セット	2セット（英語版1）	13セット
2011年1月	能美市	1セット	1セット（英語版）	2セット
2012年9月	野々市市	3セット		3セット
2012年10月	内灘町	5セット	1セット	6セット
2012年10月	七尾市	12セット	5セット	17セット
計				41セット

非核石川の会リレーエッセイ

不公正な税制は廃止を

中川 弘雄

「トヨタをはじめ輸出大企業の有力二〇社だけで、二〇一一年分の消費税の還元金が一兆一七五億円に」有価証券報告書にもとづく試算が明らかになりました。消費税一〇%が実施されれば還付金も倍になります。「輸出還付金は消費税最大の不公平」です。有力二〇社の還付金合計は一兆一七五億円。この額は全体の還付額・約二兆五〇〇億円の四七%を占めています。つまり有力二〇社が還付金全体の約半分をもつていくのです。これらの輸出大企業の本社がある税務署は税金を返すのに追われています。

全国の税務署のうち八つの税務署では、消費税の税収より還付金の方が多く赤字になっています。赤字額の第一位はトヨタの本社がある愛知県の豊田税務署です。トヨタ自動車一社の還付金は一六五〇億円（二〇一一年四月～二〇一二年三月）、輸出割合は六〇・六一%といわれています。

トヨタが税務署から還付してもらおうお金はトヨタの下請けなどおよそ二万社が苦心惨憺して税務署に納めたものでトヨタが税務署に納めた税金ではありません。つまり他人（他社）が納めた税金をトヨタ一社がもらうのです。

一方は常に納税に汲々としているのに、一方は還付金を楽しみにしている。こんな不公平はありません。しかも消費税の税率が一〇%に引き上げられ

ばこれらの企業の還付金は二倍になります。反対に下請けや中小業者は納税額が二倍近くになります。二〇%になれば還付金はいまの四倍になります。下請けや中小業者の納税額は四倍近くになるのです。この仕組みをみれば誰が消費税の税率引き上げを望んでいるかはつきり分かります。

財界は「一〇%では少ない。早くヨーロッパ並みの二〇%にしろ」と政府をけしかけています。私たち納税者はこの怒りをどうすればいいのか、「こんな不公平な消費税をなくすこと」です。消費税増税に賛成した政党を追い込み、増税に反対する政党を支援しましょう。

核兵器も原発もゼロにする」と

西 忠恭

二〇歳代に参加した広島の原水禁世界大会で非核運動の大切さを実感しました。ある時、たまたま列車で黒田隆一事務局長（当時）とバッタリと出会い、黒田さんの熱い思いに共感（お酒を酌み交わしながら）して役員をしばらくさせていただきました。農民連の活動に追われて非核の会の運動からも離れていましたが、福島原発の事故が大きな転機になりました。

今年八月にも福島県を訪ねました。川俣町、飯館村を経由して南相馬市小高地区に。農地汚染のため耕作が禁止されているため、農地に雑草が広がり、梨は剪定されず枝が伸び放題になっていました。牧場の前には「これ以上牛を殺さないで」と手書きの看板が立てられていました。

「いつになったら戻れるか」「一年剪定しなかった木はもう使い物にならない」と、福島県農民連の亀田会長（同地区在住）は日中しか自宅に戻れないが）が淡々と話される。何年も何十年も大切に育ててきた農地、木、牛や家畜たちが、手がつけようのない状況になっていることに憤りの涙が出ました。そしてこのことは他人事ではありません。

福島の仲間たちはいま、食料とエネルギー自給の地域づくりに取り組み始めました。農村でエネルギー自給の仕組みを作り雇用を創出すること、地域なかでお金が循環する地域経済の新しい枠組み作りに取り組みだしました。

「核兵器も原発もゼロにすること」このことは私の生涯にわたってのたまたかの目標です。ヒロシマ・ナガサキ・フクシマを忘れない、農業を守る、もの作りを続けることを一体のこととして、進んでいきたいと思えます。

非核の日本を目指してやるべきこと

納口 清隆

いま、オスプレイ、TTP、原発、消費税問題が国民の怒りをかっけています。そしてその根底に安保条約があることが、国民にますますわかりやすくなってきました。

核兵器の問題でも同様です。「平成二三年度以降に係わる防衛計画の大綱について」の中で「核兵器の脅威に対しては、長期的課題である核兵器のない世界の実現に向けて、核軍縮・不拡散のための取組に積極的・能動的な役割を果たしていく。同時に、

現実には核兵器が存在する間は、核抑止力を中心とする米国の拡大抑止は不可欠であり、その信頼性の維持・強化のために米国と緊密に協力していくとともに、併せて弾道ミサイル防衛や国民保護を含む我が国自身の取組により適切に対応する」と述べている。

核兵器廃絶に向けて力を入れているように見えるが、これでは核兵器を廃絶できません。

核兵器が存在する間は、米国の核兵器の維持・強化のために米国と協力していくというのですから、これでは永久に核兵器は無くならないでしょう。

また、天野万利国連軍縮会議日本政府代表部大使の第六六回国連総会での演説では、「我々が（核兵器のない世界という目標に向かって）前進するためには、終りのない無益な議論や実現しそうな希望に甘んじて自らを欺くべきでない。我々が考慮すべきなのは、交渉開始に結びつき、責任ある利害関係者たちが合意できるような実質的な措置である」（国際情報資料三四・日本原水協発行）と述べています。

責任ある利害関係者の中には、米国が含まれます。すなわち、米国が合意出来ないような提案は無益な議論だと。これでは核兵器廃絶にならないでしょう。その根底に「安保優先」の政治思考があると思う。核兵器をなくすためには、被爆の実相を広め、核兵器の残虐さを、日本国民をはじめ世界の人々に広く知ってもらうことと同時に、日本を実質的に支配している安保条約をなくすことで、唯一の被爆国としてアメリカに「核廃絶をせよ」と言える国にすることだと思えます。

詩人会議かなざわ「独標」より

感謝

高久晴美

毎週通う仙台への生活

さまざまな想いと共にバスに乗る

「いつてらっしゃい、気をつけて」

そう言ってくれる夫に

数年前告白された借金を許そうと思う

「今週も仙台、大変だね」

そう言ってくれる働く仲間達に

忙しい金曜日に申し訳なく思う

「おつかれさま」

そう言って姉と共に迎えに来てくれる兄

気の強い姉でごめんさい…

そんな二人の向う先では

見えない人々に悩まされ闘い続ける父

本人にしか見えない——

音の無い世界を愛し自分の世界に暮す母

おろおろしつつも心の扉は開けないまま——

でも…二人で暮すんだって

やっぱ二人がいいんだって

だから…

ほんの数時間、姉と四人 昔に戻って

一緒に食べる昼ごはん

そんな時間を待っていてくれる両親にも

感謝

あとの位

この平穏な時間が

あるのかな…

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班

近松美喜子



和定例会報より

宿題「無視」

岩原 茂明 選

無視の中踊り忘れぬ慎太郎
合意無視了解済みの御用聞き

一村 林

人位

石原知事都民無視で宗旨替え
世論無視濡手に稼働のボタン押す

和子 大峰

地位

無視される民意が歴史を創造す
九条を無視して屈指の軍事力

林 啓

天位

大間原発見切発車で活断層

啓

軸

米野菜被曝続くが無視給食

《非核平和・行事予定》

・十一月三日(金)・二五日(日)：二〇一二年日本平和大会・東京

・十一月二三日(金)・四時～一七時：イメージ福島VOLTM 金沢・見えない糸をたぐりよせて・金沢学生のみち市民交流館交流ホール・主催イメージ福島実行委員会

・十一月二五日(日)一〇時～一六時：石川県労済会館・第七回石川県社会保障学校・メインテーマ「憲法が輝く社会をめざして」新たな福祉国家を展望する

(分科会) 一〇時～一二時
第一分科会「貧困克服のためにー生きがい、希望の

もてる社会をめざして」第二分科会「社会保障とはなかに？ 学び・話し合うつどい」第三分科会「『一体改革』でどうなる社会保障―当事者、現場からの報告」
(全体会) 一三時～一六時

テーマ：私たちの社会保障基本法・社会保障憲章の提言
講師：渡辺治一橋大学名誉教授、井上英夫金沢大学地域創造学類教授

・十一月二八日(水)一八時：映画「一枚のハガキ」上映
会相談会・平和と労働会館一階会議室

・十一月一日(土)一三時～金沢社会保障推進協議会定期総会・石川勤労者医療協会会館

・十一月六日(木)一二時半：核廃絶署名行動・Mザ前映画「沖繩」二回上映・近江町交流プラザ四階

・十一月八日(土)一三時：新日本婦人創立五〇年記念石川の集い・記念講演／笠井貴喜美代会長・金沢歌劇座二階大集会室

・十一月九日(日)一〇時：NPO法人『はだしのゲン』をひろめる会設立総会・DVD上映「はだしのゲンが見たヒロシマ」・近江町交流プラザ四階研修室

・十一月十五日(土)一三時半～一六時半・学習会「維新八策を撃つ」橋本維新の会は何を目指しているのか・森裕之立命館大学政策科学部教授・近江町交流プラザ・主催石川革新懇

・十一月六日(日)二三時半：新日本婦人の会創立五〇周年記念レセプション・金沢都ホテル七階鳳凰の間

・十一月二三日(土)一五時：医療・福祉問題研究会第一〇九例会「雇用の劣化の現況とデーセントワーク

実現の課題」伍賀一道金沢大学教授・近江町交流プラザ四階集会室

・十一月二三日(日)一四時：一七時・いしかわ自治体問題研究所第八回総会記念講演「防災・減災のまちづくりと自治体の役割(仮題)」・塩崎賢明立命館大学教授・近江町交流プラザ四階集会室

・十一月二六日(水)一三時～一五時半：日本生活教育連盟石川冬の集会・講演「脱原発の島で暮らす」講師 山戸孝さん(上関原発反対運動リーダー) 片山津温泉ホテル森本

・十一月二日(土)一三時～一五時半・むぎわらぼうし一品持ち寄り新年会・石川県教育会館二階集会室

《編集室より》

◎本紙に掲載した京都大学原子炉実験所・小出裕章氏の講演会は圧巻で四割以上の参加者からアンケート回答がありました。「子どもの家族が福島で生活していた。親としてはやるせない気持ちでした。見通しもない中と思っていたが、今を生きる大人のひとりとして今すぐ原発をやめさせる。子どもに最善の環境を与えていくことがなにより大切なことと、先生のお話でわかりました」「これからの変わってしまった世界をどう生きていくのか、ずーと考えさせられています。」「とても説得力がありがたい。本当に怖くなりました。目からウロコの連続。責任のある大人として自分自身も考え、行動していきたいと思えます。福井からやってきた値打ちがありました」等々。(か)